

【報道関係各位】

スイスプチ・パレ美術館展

—珠玉のフランス近代絵画—

佐川美術館(所在地:滋賀県守山市)では、秋季展覧会として「スイス プチ・パレ美術館展 一珠玉のフランス近代絵画—」を開催いたします。

伝統的な写実主義のもと、一部の富裕層や貴族など特権階級の間で愛好されてきたフランス絵画。19世紀末から第一次世界大戦勃発(1914年)に至るまでの時期は、「ベル・エポック」(良き時代)と謳われ、美術史上新たな画期を迎えることになります。この頃のパリでは、これまでに無い新たな芸術を生み出そうとする機運が高まり、画家は独自の感受性を持って現実世界に目を向けるようになります。描かれるテーマも、ダンスホールやカフェ、芸術家たちの交流といった、市井の人々の暮らしぶりに焦点が当てられ、当時の庶民にとって芸術がより身近な存在となったのです。

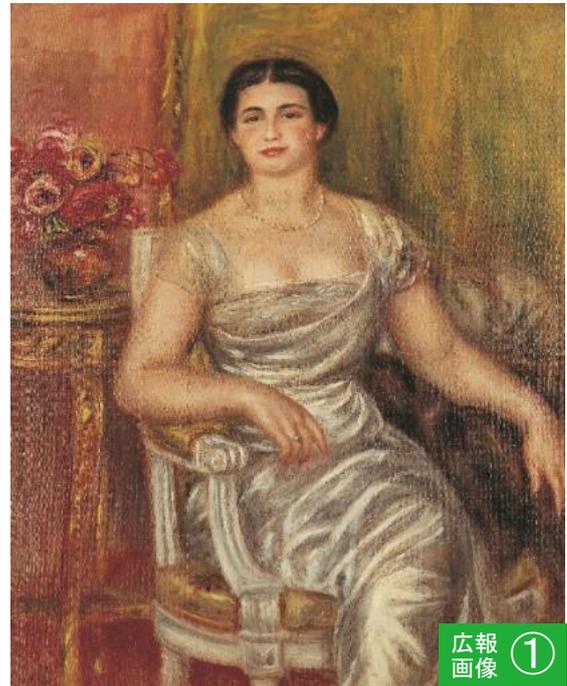
印象派をはじめ新印象派、ナビ派、フォーヴィスム、キュビスム、エコール・ド・パリに至るまで、様々な絵画様式が生み出されたフランス近代絵画。画家独自の技法や色彩感覚により描かれた作品からは、パリの華やかな文化・生活様式がうかがえます。

現実世界の忠実な再現にとどまらず、芸術によって自らを表現するという精神のもと、新たな絵画のあり方を追求し続けたフランス近代絵画の名品を、スイス・ジュネーブのプチ・パレ美術館所蔵作品約65点によりご紹介します。なお、同美術館のコレクションが日本で紹介されるのは、約30年ぶりのことです。

展覧会実施概要

- ◆名 称 : スイス プチ・パレ美術館展 一珠玉のフランス近代絵画—
- ◆会 期 : 2021年9月14日[火]～11月7日[日]
- ◆開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 : 月曜日(9/20は開館)、9/21
- ◆入館料 : 一般¥1,200/高大生¥800(学生証をご提示ください)/中学生以下無料 ※ただし保護者の同伴が必要
※ 専門学校・専修学校は大学に準じる。
障害者手帳をお持ちの方(手帳をご提示ください)、付添者(1名のみ)無料

[主催]佐川美術館(公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団) [後援]在日スイス大使館、滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会
[企画協力]株式会社ホワイトインターナショナル [協力]SGホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社



オーギュスト・ルノワール
《詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像》
1913年

広報
画像 ①

新型コロナウイルス感染状況に応じて、実施概要が変更になる場合がございます。
最新の情報については、必ず佐川美術館ホームページをご確認ください。

プチ・パレ美術館について

スイス・ジュネーブのプチ・パレ美術館は、チュニジア出身の実業家オスカー・ゲイツ(1905-1998)が絵画、彫刻など自身のコレクションの展示を目的に自宅敷地内に設立した美術館です。「平和に奉仕する芸術」を理念に芸術を愛し、多くの人々と生きる喜びを分かち合いたいという想いで、1870年代から1930年頃までのフランス近代絵画の作品を中心に収蔵、公開してきました。印象派から新印象派、ナビ派、フォーヴィスム、キュビズム、エコール・ド・パリに至るまで その作品は多岐にわたります。現在は美術館として一般公開は行わず、展覧会への貸出を中心に事業を展開しています。

■ 展示構成

印象派

色鮮やかな色彩と素早い筆遣いが特徴的な印象派。1874年、パリで開催されたグループ展でルノワールをはじめ、印象派の画家たちは当初厳しい批評を受けました。画家独自の感性により描かれた彼らの作品は、当時の美術評論家にとって自由奔放な筆致によるスケッチ的性格

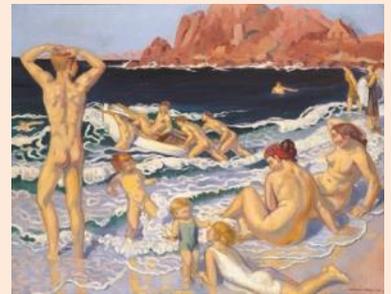


ギユスターヴ・カイユボット
《子どものモーリス・ユゴの肖像》
1885年

をはらんだものとして映ったのです。しかし、戸外の光の効果を用いた明るい色調と的確な筆遣いが次第に評価されるようになり、印象派の画家たちはその地盤を築き上げました。

ナビ派 / ポン＝タヴァン派

ヘブライ語で「預言者」を意味する「ナビ派」。彼らは宗教的な秘密結社に近い性格を持っており、神秘的なテーマを扱い、人間のもつ夢や苦悩など、形なき精神世界を描きました。



モーリス・ドニ
《ペロス＝ギリックの海水浴場》
1924年

フランス・ブルターニュ地方の小村「ポン＝タヴァン」で活動した一派も同様のテーマを扱いますが、印象派や新印象派の明るい光による画面構成を否定し、濃い灰色(鈍色)の絵具を中心に用いました。

新印象派

印象派を出発点としながら否定することで、様々な絵画様式が発展する中、「新印象派」という新たな動向が生まれました。印象派の画家独自の感性による描写に対して、



ニコラス・アレクサンドロヴィッチ・タルコフ
《ダンス》1904年

色彩の理論を科学的に分析し、均一な大きさの点描が特徴で、色鮮やかな明るい絵の具が用いられました。

フォーヴィスム

激しく鮮烈な色彩と大胆な筆のタッチを特徴とし、自然の秩序を越えて自由に表現した「フォーヴィスム」(野獣派)。1905年に開催されたパリのグループ展で、「あたかも野獣の檻の中にいるようだ」と評されたことからその名が付けられました。理論的な絵画運動とは異なり、画家たちの交友関係から自然発生的に生み出された様式です。



アンリ・マンギャン
《ヴィルフランシュの道》
1913年

キュビズム

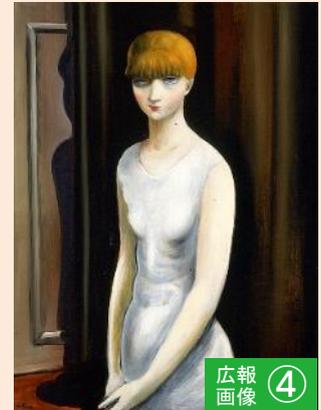
立体的な対象を平面に解体して描く、大胆な造形を試みた絵画様式「キュビズム」。「フォーヴィスム」が色彩における絵画の革命であったのに対し、形態の革命と評されています。それまでは一つの視点から対象が描かれていた事に対し、様々な角度から見たイメージが一つの画面に描かれています。



ジャン・メッツァンジェ
《スフィンクス》1920年

ポスト印象派 / エコール・ド・パリ

主に1880年代から活躍し、印象派を否定しながら新たな絵画様式を模索していた画家を「ポスト印象派」と言います。彼らは別々に活動し、それぞれ異なる画風を示しており、「フォーヴィスム」や「キュビズム」などの様式が生み出される過渡期にあたります。



モイズ・キスリング
《赤毛の女》1929年

特定の芸術理論を掲げず、画風も様々な「エコール・ド・パリ」の画家は、「パリ派」とも呼ばれ、諸外国からパリ(特にモンマルトルやモンパルナスを中心に)に集まり、創作活動を続けました。当時流行していた「キュビズム」など他の流派とは一線を隔し、抒情的な哀愁漂う作品が特徴的です。

みどころ

■ ベル・エポックに花開いた文化

華やかで享乐的な気分にあふれた「ベル・エポック」の時代、建築や工芸デザイン、ポスター、挿絵などあらゆる分野で新たな美意識が生み出されるようになりました。花や植物などのモチーフ、美しい曲線の組み合わせによる従来の様式にとらわれない装飾が特徴的な「アール・ヌーヴォー」(新しい芸術)と呼ばれる新たな美術運動が当時のヨーロッパを席捲します。

フランスでは家具や調度品、書籍、さらには1900年に開通した地下鉄にもアール・ヌーヴォーの様式が取り入れられました。特にフランスを代表する舞台女優であり、「アール・ヌーヴォー」の旗手となったサラ・ベルナールの活躍は、女性のファッションなどにも影響を与え、華やかな文化が発展しました。

この時代の画家独自の自由な表現で描かれた「ベル・エポック」の華やかな文化をご覧ください。



ジョルジュ・ボッティエニ
《バーで待つサラ・ベルナールの肖像》
1907年

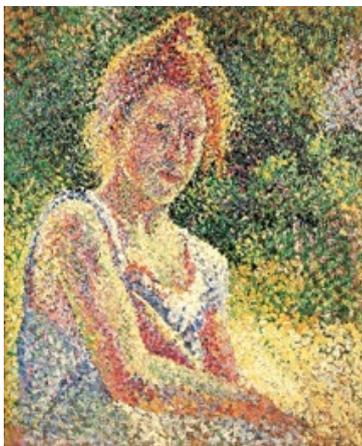
■ 様々な人物表現に注目

ルノワールをはじめ印象派の画家たちは、それまでの王侯貴族の肖像画に見られる格式ばった人物画の表現とは異なり、庶民が日常生活の中にとけこんでいる様子を明るい色調で生き生きと描きました。さらに、マクシミリアン・リュスなど新印象派の画家は、一般人の女性や労働者など、これまであまり描かれることのなかった人物を題材に明るいトーンを用いて点描で表現しました。

また、「色彩画家」と評されるアンリ・マンギャンなどフォーヴィスムの画家は、強烈なまでの色彩と力強いタッチにより、裸婦像を描いています。同じ裸婦のテーマを扱っても、アルベール・グレーズなどキュビスムの作家は、デザイン性に富んだ平面的な人物表現で描いています。

ほぼ同時期に活躍した作家であっても、人物画という一つのジャンルに対して描き方や表現技法が全く異なり、画家独自の個性が表れるのは、フランス近代絵画の魅力の一つです。

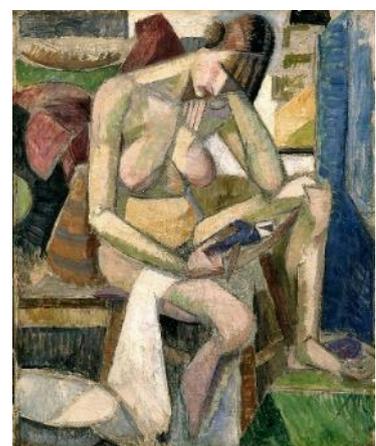
伝統的な写実主義から脱却した画家独自の自由な描き方による様々な人物表現にご注目ください。



マクシミリアン・リュス
《若い女の肖像》1893年



アンリ・マンギャン
《室内の裸婦》1905年



アルベール・グレーズ
《座る裸婦》1909年

■ ヴァラドンとユトリロ 母子の共演

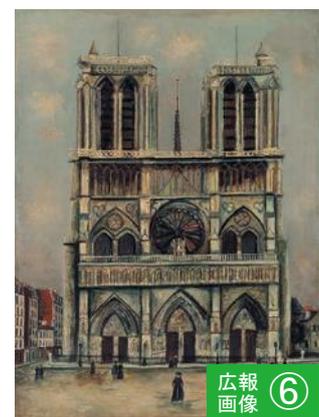


シュザンヌ・ヴァラドン
《コントラバスを弾く女》
1908年

モーリス・ユトリロの母、シュザンヌ・ヴァラドンは、オーギュスト・ルノワールやトゥールーズ・ロートレックなどのモデルを務めていたこともあり、その影響のもと独学で絵画を学び始め、印象派の画家を牽引したエドガー・ドガに師事しました。

一方、息子のユトリロは生活環境に恵まれず、母からの愛情を受けることができなかったことが影響し、10代にしてアルコール中毒に陥ります。そこで、医者のおすすめにより絵を描いたところ人気を博し、特に白を基調とした作品を多く描いた「白の時代」と称される時期に、作家としての絶頂期を迎えます。

力強い描線の人物画に定評があるヴァラドンと対照的に、ユトリロは繊細な風景画を数多く描いています。親子ともに画家ながらも、それぞれ異なる独自の画風を確立させた二人の作品をご紹介します。



モーリス・ユトリロ
《ノートル＝ダム》1917年

※画像は全て ASSOCIATION DES AMIS DU PETIT PALAIS, GENEVE

●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(広報画像と記載されているもの)をご用意しております。

画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書(プレゼント用無料観覧券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

●プレゼント用無料観覧券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効の無料観覧券を10枚までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の作品画像使用申込書(プレゼント用無料観覧券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 30 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団
佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員：藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

作品画像使用申込書 (プレゼント用無料観覧券申込付)



佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

申込日 2021年 月 日

作品画像の露出・掲載等 ご使用にあたっての注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ● 掲載誌・紙は資料として1部以上お送りくださいますよう、お願い致します。 ● その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。
使用作品 ※ご希望の作品にチェックを 入れてください。	<div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 1. オーギュスト・ルノワール 《詩人アリス・ヴァリエール＝メルツバッハの肖像》 1913年 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 2. ギュスターヴ・カイユボット 《子どものモーリス・ユゴーの肖像》 1885年 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 3. ジャン・メッツアンジェ 《スフィンクス》 1920年 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 4. モイズ・キスリング 《赤毛の女》 1929年 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 5. シュザンヌ・ヴァラドン 《コントラバスを弾く女》 1908年 </div> <div style="margin-bottom: 10px;"> <input type="checkbox"/> 6. モーリス・ユトリロ 《ノートル＝ダム》 1917年 </div> <p>ご希望の作品にチェックを入れてください。</p> <p>1～6の作品画像使用の際は、上記キャプションと下記著作権表記をお願いします。</p> <p>著作権表記「ASSOCIATION DES AMIS DU PETIT PALAIS, GENEVE」</p> <p>原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めをお願い致します。</p> <p style="text-align: right;">計 _____ 点</p>
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	
ご連絡先	ご住所:(〒 _____) メールアドレス TEL: _____ FAX: _____
発行(掲出)予定日	_____年 _____月 _____日 _____号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
無料観覧券希望枚数	読者プレゼント用として、無料観覧券 _____ 枚 ※ 枚数は10枚以内でお願いいたします。ご了承ください。